

令和2年度 保育所自己評価表

(大地の子こども園)

ねらい…保育所の役割や社会的責任を遂行するために、法令などを遵守し、保育所を取り巻く社会情勢を踏まえ、その専門性の向上に努め、保育所の望ましい管理運営するため、今年度の本園の保育・教育全般を総合的に評価し、次年度の保育計画に生かすため活用する。

<理念>

保育理念や目標を入れたBGMを制作し、登降園時に放送して保護者や職員と共有化し、浸透を図っている。また昼礼や園内研修の前に唱和している。

<教育保育計画と内容>

主任保育士を中心に定期的な進捗確認、ケース会議等を通して随時指導、助言を行い必要に応じて見直しを行っている。保育の活動内容は、子どもの心の育ちや意欲に配慮し、個人や集団に合わせた教育保育が行われた。そのなかで、子どもが興味関心を示さない場合は、活動内容を改善し、保育環境を整えた。保育理念を実践するために職員は、園児の全面受容や共感すること、大好き保育の実践で、安心感と信頼関係を築き自信のある子を育むことを意識した。

経験の浅い保育士と中堅、ベテラン保育士をクラス担当のペアとして配置し指導、助言、知識の継承を行っている。

<こどもの発達支援>

各クラスのエピソード事例を園内研修で発表した後、他の職員の意見や感想をフィードバックしてもらうことで保育の幅や、奥深さが広がり、保育の楽しさを改めて再確認することができた。

コロナ禍の影響で、小学校や連携園との会議等が中止となり、双方の教諭との積極的な意見交換の場（オンライン会議）が必要と感じている。

<保護者支援>

理事長が朝約1時間、夕方30分玄関前に立ち、園児の受入降園を見届けている。保護者と積極的に関わることで園長を始め職員への意見・要望を直接伝える保護者もいる。また、園内研修の内容を保護者にわかりやすく伝えることで、感想や意見を聞くことができ職員の保育の原動力となっている。子育て支援として毎週2日に限定して「親子子育て広場」を開設し、地域との関わる事業を展開している。コロナ禍で開催する機会が少なかったが、過去に子育て広場に通った親子が実際に入園するケースもあったことから、地域と交流を図る重要な事業の一つとして実施している。

<教育保育を支える組織的基盤>

職員の資質向上への取り組みは、2021年度も工夫し積極的に行う。マニュアルの読み合わせや共通理解を図ることで、全職員の考え方や捉え方に違いがないようにする。マニュアルで全て事足りるわけではないが、様々な人々が集まる組織では全職員一定の水準に保つようにし、保護者とも共有していく。

法人理念「人々の幸福な人生に貢献する」に沿うように園児・保護者・職員の幸せをめざし、気軽に意見を出し合える風通しの良い職場を職員全員でめざしていく。安全・安心の教育・保育の提供と感謝に幸せがあることを第一義に、今後も研修を重ね職員の資質と専門性の向上に努めていく。